

参加者へのインタビュー

(Aさん夫婦)

包括支援センターの職員さんに教えていただいたことがきっかけで参加し、2年ほどになります。

週に1回、他愛のない話をしたり、ゲームや季節の創作活動をすることが、私たち夫婦にとって何よりの楽しみです。

ずっと家にいても変化がなく退屈ですが、みちくさが外出のきっかけにもなり、気分転換や脳の刺激にもなっています。

1人で参加することが難しい人は、家族や友人と一緒に気軽に参加してみたいです。みちくさは、多くの人に足を運んでほしいと思う大切な場所です。

みちくさの特徴

◎県内初の認知症カフェ

平成25年に開設し、今年で12年目。多くの人の居場所になっています。

◎ケアマネジャーが常駐

介護保険を利用する人やその家族をサポートする事業所である居宅介護支援事業所のケアマネジャーがカフェの運営をしているため、認知症をはじめ、介護保険についての相談も気軽にできます。

◎駅近！予約不要！

J R三里木駅から徒歩3分。
予約不要で好きな時間に参加できます。

◎アットホームな雰囲気

民家の一部を活用して開設しており、のんびりとした雰囲気で楽しく過ごせます。



知症に関する相談・情報共有はもちろん、家族のちょっとした休息や交流も楽しむことができます。また、地域の人も気軽に参加・交流ができる「地域の縁がわ」としても開放しており、月に1度演奏会などのイベントも開催しています。

**気軽に寄れるところの
抛り所でありたい**

同事業所の春木洋子さんは「毎週開催しているからといって、『毎週通わないといけない』『何か相談しなきゃいけない』といった場所ではありません。寄り道気分です、

町内唯一の認知症カフェ「みちくさ」。J R三里木駅近くにある小さな看板が掛けられた民家で、奥に入れば、さまざまな植物が出迎えてくれ、玄関からは楽しく談笑している声が聞こえてきます。

「職員が、熊本県認知症コールセンターに通う人から『もっと近くに集える場所があったらいいのに』という声を聞き、その思いに同調し、自宅を活用して立ち上げることにしました」と当時を振り返るのは、居宅介護支援事業所みちくさの三浦久子さん。

みちくさは、毎週金曜日に、認

いつまでも自分らしく暮らすための居場所

今や身近な存在となった認知症。令和4年10月時点での町の認知症高齢者は1,226人で、高齢者の8人に1人は認知症とされています。

認知症は誰もがなる可能性のある病気で、決して他人事ではありません。自分や家族がいつなるかわからない。だからこそ、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりが求められています。

町では、以前から町民が主体となって、認知症の理解を深め、地域で支える取り組みが行われています。

認知症カフェ みちくさ

あなたは、自分や大切な人が認知症になったらどう暮らしたいですか。今回は認知症になっても安心して暮らすための取り組みを紹介します。

思いを形にした 楽しく集える場所



カフェを運営する三浦さん、春木さん(写真左から)

足を運んでいただける場所です。居宅介護支援事業所が運営していますが、参加者として同じ立場で話していますよ」と笑顔を見せます。

「困ったときに『みちくさ』があったと思いついてもらえるような場所でありたい」と思いを語る2人。いつまでも自分らしくいるために、たまには寄り道をして、毎週金曜日に温かく迎えてくれる。そんな場所として「みちくさ」はあなたをお待ちしています。

お困りのことは、地域包括支援センターにご相談ください！

町地域包括支援センターは、高齢者の総合相談窓口として介護保険課内に設置しており、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士などの専門職が、高齢者に関する生活の相談を受け付けています。

また、認知症の専門相談員である「認知症地域支援推進員」も在籍し、認知症の人やその家族、地域の人からの相談対応や、認知症の人の見守り支援制度の提案などを行っています。

☎ 096(232)2366(午前8時30分～午後5時15分 土・日・祝を除く)



認知症カフェ みちくさ

☎096(285)7821

▶開催日 毎週(金) 午前10時～正午

▶場 所 津久礼2334番地3

▶費 用 100円

※カフェに駐車場はありません。

近隣の有料駐車場をご利用ください。